令和７年度　１学年

各教科の学習内容と
その評価方法

江戸川区立小岩第三中学校

＜目次＞

学習評価･評定について　Ｐ 1

国　　語 ･･･････Ｐ 2～5

社　　会 ･･･････Ｐ 6～8

数　　学 ･･･････Ｐ 9～13

理　　科 ･･･････Ｐ 14～15

英　　語 ･･･････Ｐ 16～17

音　　楽 ･･･････Ｐ 18～22

美　　術 ･･･････Ｐ 23～24

保健体育 ･･･････Ｐ 25～29

技術家庭科 ･･･････Ｐ 30～34

令和７年度 国語科年間指導計画及び評価 （1年）

担当　立澤 珠美　金田 志津雄

1　評価に関わる教科の基本方針

・　言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育成することを指導の重点としています。

・　日々継続的に学習する習慣をつけさせるための生徒の取り組み

①授業での取り組み　②家庭学習の取り組み　③定期考査などへの取り組み

これらを連動させ、以下の年間指導計画に基づいて指導していきます。各単元での学習内容を深め、それを適正に評価できるよう、評価規準を明確にします。

2　評価から評定への総括方法

観点	項目
知識・技能	・漢字テスト　・文法テスト　・毛筆、硬筆書写　・定期考査　・提出物の内容 ・古典の暗唱　など
思考・判断・表現	・スピーチ　・討論　・弁論　・音読　・聞き取りテスト ・発表に対する評価　・発言内容 ・作文　・課題文　・感想文　・要約　・聞き取りメモの内容 ・発表原稿　・内容理解　・要点の抜き出し　・文章構造の理解 ・内容を理解した音読　・定期考査　など
主体的に学習に取り組む態度	・発言内容　・ノートの内容　・宿題、提出物の提出状況および内容 ・授業内の課題やグループワークへの取り組み　・小テスト　など

3　年間指導計画および評価規準

学期	月	単元名	時数	学習活動	評価規準と評価の観点
1学期	4	・授業開き ・朝のリレー	1 2	・授業の進め方、持ち物の確認、評価方法の説明を受ける。	【知技】音声の働きや仕組みについて理解を深めることができる。
		野原はうたう	2	・詩の情景を想像しながら音読発表し詩表現について交流する。	【主体】進んで理解を深め小学校での学習を生かし音読しようとしている。
		・はじまりの風	4	・描写をもとに登場人物の相互関係や心情の変化を捉える。	【思判表】場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写をもとに捉えることができる。
		・言葉のまとまりを考えよう	3	・教科書を読み、言葉の単位について理解する。	【知技】言葉の単位について理解することができる。
	5	・話の構成を工夫しよう	4	・班でスピーチを聞き合い、よかったところを伝え合う。	【思判表】自分の考えや根拠が明確になるように事実と意見との関係などに注意し話の構成を考える事ができる。

		・ダイコンは大きな根？	3	・比較がどんな場面で使われるのか確かめる。 ・段落の役割に着目して文章の内容をとらえる。	【思判表】文章の中心と付加的な部分などについて要旨を把握することができる。
	6	・ちょっと立ち止まって	3	・文章の構成に着目して要旨をとらえる。 ・筆者の主張と事例との関係を整理する。	【知技】比較や分類などの情報の整理の仕方を理解し使うことができる
		・指示する語句と接続する語句	2	・働きを整理する。	【知技】役割について理解を深めることが理解できる。
		・空の詩三篇 　比喩で広がる世界	3 2	・詩を読み味わい表現の効果について考える。 ・比喩について理解し、生かし方を考える。	【知技】表現技法を理解し、使うことができる。 【思判表】文章の中心と付加的な部分などについて叙述を基にとらえ要旨を把握することができる。
	7	・著作権について知ろう ・読書を楽しむ	2 3	・著作権の定義や許可が必要ない場合について確認する。著作物を使用するときの留意点を確かめる。 ・ブックトーク・ブックポスターを夏休みの課題とし、その手順を学ぶ。	【知技】情報整理の仕方、引用の仕方や出典の示し方について理解を深め、使うことができる。 【知技】読書が自分の考えを広げたりすることに役立つのを理解することができる。
		・書写 ・漢字の組み立てと部首 ・言葉を調べる	2 2 2	・書写の基本について学ぶ。 ・漢字の組み立て部分を理解し、部首についても理解する。 ・国語辞典や漢和辞典の使い方を知る。	【主体】言葉が持つ価値に気づくとともに我が国の言語文化を大切にして思いや考えを作品にする。 【知技】学年別漢字配当表の漢字に加え、その他の常用漢字のうち 300 から 400 字程度まで読むことができる。 【知技】音声のはたらきや仕組みについて、理解を深めている。また国語辞典や漢和辞典を使うことができる。
2学期	9	・大人になれなかった弟たちに	5	・描写に着目して登場人物の心情をとらえる。 ・本や資料を読み、作品の背景や状況を知る。 ・題名の持つ意味や表記に込められた作者の意図を考える。	【思判表】場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写をもとに捉えることができる。 【思判表】物語を読み、考えたことなどを記録したり伝えあったりする。

	9	・星の花が降るころに	5	・「私」を中心に作品の内容を押さえる。 ・場面や描写を結び付けて内容を解釈する。	【知技】比較や分類などの情報の整理の仕方を理解し使うことができる 【思判表】場面と場面、場面と描写などを結び付けて内容を解釈することができる。
		・方言と共通語	1	・方言と共通語の違いを理解する。また、日本における消滅危機言語について知る。	【知技】方言と共通語の果たす役割について理解することができる。
		・書写(楷書と行書)	4	・書体の違いや筆の使い方について学ぶ。	【知技】書体の違いや筆の使い方について注意して書くことができる。
	10	・聞き上手になろう	2	・聞き方や質問の仕方を学ぶ。 ・対話の練習をする。	【知技】音声の働きや仕組みについて理解を深めることができる。 【思判表】必要に応じて記録したり質問したりしながら話の内容をとらえ、自分の考えをまとめることができる。
		・「言葉」を持つ鳥、シジュウカラ	5	・文章の構成と内容をとらえる。 ・構成や展開の効果について根拠を明確にして考える。	【思判表】文章の構成や展開について根拠を明確にし考えることができる。
		・意見と根拠	1		【知技】原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる。
		・言葉の関係を考えよう	4	・文の組み立てを理解して文章の推敲に生かす。	【知技】文の成分の順序や照応など文の構成について理解をすることができる。
		・漢字に親しもう１～３	3	・辞典類を活用して意味や用例などを確認する。	【知技】国語辞典や漢和辞典を使い、語彙を広げることができる。
		・漢字の音訓	1	・漢字の音訓の歴史や性質について理解する。	【知技】漢字の音訓の歴史や性質について理解することができる。
	11	・古典の世界 いろはうた	1	・古典には様々な作品があることを知り、音読に必要なきまりや訓読の仕方を知って音読する。	【知技】古典には様々な作品があることを知り、音読に必要なきまりや訓読の仕方を知って音読することができる
		・蓬莱の玉の枝	4	・仮名遣いに注意して音読する。 ・現代文との違いを確かめる。 ・作品の内容を読み取り、古典の世界を想像する。	【思判表】文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えを確かなものにすることができる。
		・今に生きる言葉	4	・漢文を、リズムを味わいながら音読する。 ・故事成語を理解し、自分の生活と結び付けて考える。	【知技】漢文を音読し、古典特有のリズムを通して古典の世界に親しむことができる。 【思判表】書く内容の中心が明確にな

				・	るように文章の構成や展開を考えることができる。
		・書写（毛筆）	4	・書体の違いや筆の使い方に注意して作品を書く。	【知技】書体の違いや筆の使い方に注意して作品を書くことができる。
	12	・不便の価値を見つめ直す ・原因と結果	4 1	・本文を通読し内容をとらえ、要約し、筆者の主張について検討する。	【思判表】目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈することができる。
		・書写（毛筆）	3	・書初め作品を書く。	【知技】書体の違いや筆の使い方に注意して作品を書くことができる。
		・進め方について考えよう	1	・話し合いの効果的な進め方を考える。	【思判表】話題や展開を捉えながら話し合い互いの発言を結びつけて考えをまとめることができる。
		・漢字に親しもう４・５	2	・辞典類を活用して意味や用例などを確認して問題を解く。	【知技】学年別漢字配当表の漢字に加え、その他の常用漢字のうち 300 から 400 字程度まで読むことができる。また学年別漢字配当表の漢字のうち 900 字程度の漢字を書くことができる。
		・研究の現場にようこそ	2	・本文を通読し、読書の意義を理解する。	【知技】読書の意義を理解することができる。
３学期	1	・少年の日の思い出	7	・作品の展開をとらえ、表現に着目して「僕」の心情の変化をまとめる。 ・別の人物の視点から考える。	【思判表】事象や行為、心情を表す語句の量を増やすとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して語感を磨き、語彙を豊かにすることができる。
		・単語の性質を見つけよう	3	・単語の性質について考える。	【知技】単語の類別について理解することができる。
	2	・二十歳になった日	4	・随筆の内容をとらえ、構成や表現の効果を考える。	【思判表】文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができる。
		・構成や表現を工夫して書く	6	・随筆の題材を選び、材料を書き出し、整理して攻勢を考え、随筆を書く。	【思判表】根拠を明確にしながら自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。
		・書写	2	・作品展の準備と振り返り	【知技】作品を書くことができた。
	3	・漢字の成り立ち ・大阿蘇	2	・漢字の成り立ちについて理解する。	【知技】漢字の成り立ちについて理解することができる。
		ぼくが　ここに	4	・詩を読み味わい、表現技法と効果を確かめ、作者の思いについて考え、その考えを伝えあう。	【知技】技法を理解し、使うことができる。 【思判表】考えたことを伝えあうことができる。
		・１年の振り返り	3	・振り返りを行い、話し合う。	

令和７年度　　第１学年　社会科　　評価から評定への総括方法

担当：小林　紀榮・堀内　健太朗

１．評価に関わる教科指導の基本方針　（評価計画）

・学習指導要領に基づいたカリキュラムを作成し、言語活動を積極的に取り入れる。

・個人で学習や作業に取り組むだけでなく、グループワークや意見の共有などによって、地理的分野と歴史的分野の基礎的な知識を身につけさせる。

・定期考査だけでなく、授業での課題へ取り組む姿勢、提出課題の状況および単元のまとめと振り返りを重視し、評価していく。

・年間を通して地理的分野と歴史的分野を交代して学習していく。

・タブレット端末、プロジェクタ等を利用した視聴覚教材を適宜活用していく。

・正しい情報を集めて調べる力、調べる力、発表する力をつける。

２．評価の観点と評価方法

①　知識・技能

②　思考・判断・表現

③　主体的に学習に取り組む態度

３．評価から評定への総括方法の一覧表　　（各観点を総括して数値化し評価します）

	授業での取り組み				家庭学習の取り組み			考査などへの取り組み		
評価方法	ワークシート	作業・発言・協働	単元のまとめ	振り返り	提出課題・宿題	ワークシート	調べ学習	定期考査	ワーク	評価のポイント
主体的に学習に取り組む態度	○	○	○	○	○	○	○		○	課題意識をもった学習への取り組み 修正する力
思考・判断・表現	○	○	○			○	○	○	○	論理的思考 発言・回答内容 作品の構成 応用力
知識・技能	○	○	○		○	○	○	○	○	創造性 適切な資料の活用 概念の理解 基礎的な知識

4．令和７年度　第１学年　社会科　年間指導計画・評価規準

学期	月	時数	学習項目・内容	評価規準	評価の観点
1	4 5 6 7	7 12 10 10	**《地理的分野》** 第一部　世界と日本の地域構成 第一章 世界の姿 第二章 日本の姿 ☆世界の国調べの課題学習	・地球上の大陸や大洋の名前を知る。 ・世界の様々な国に対し、興味を持ち、大きさや形、大体の位置がわかる。 ・地球儀の見方や様々な地図の図法を知り使いこなすことができる。 ・気候帯の違いと、それに伴う食べ物や住居の違いについて理解している。 ・雨温図を読みこなすことができる。実際に雨温図を作成することができる。 ・世界各地の異なる衣食住の特色や宗教について整理して理解している。 ・世界の地域の分類の仕方を理解する。 ☆世界の国を一つ選び、その国の特徴について調べる。	知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度
2	9 10 11 12	12 16 17 11	第二部　世界のさまざまな地域 第一章　人々の生活と環境 第二章　世界の諸地域 アジア州 ヨーロッパ州 アフリカ州 定期考査 北アメリカ州 南アメリカ州 オセアニア州 定期考査 **《歴史的分野》** 第１章　歴史の捉え方・調べ方 １ 年代の表し方と時代の分け方 ２ 身近な地域の歴史を調べよう ☆身近な地域の課題学習 第２章　原始・古代の日本と世界 １ 人類の出現と文明のおこり ２ 日本の成り立ちと倭の王権 ３ 大帝国の出現と律令国家の形成 定期考査 ４ 貴族社会の発展 第３章　中世の日本と世界 １ 武家政治の始まり	・各地域の地形・国名・都市名を覚える。 ・各地域の言語・民族・工業・農業などについて理解している。 ・各地域の特色を多角的に考察し、表現している。 ・各地域の課題について、主体的に追求しようとしている。 ・歴史とは何か、時代区分について知る。 ☆身近な地域の遺跡・祭り・伝統行事・特産物などについて調べる。 ・人類の進化の段階を理解している。 ・縄文時代から弥生時代、古墳時代への国家形成の過程を史料から読み取る。 ・中国大陸の文化の影響を受けながら律令国家から摂関政治へと展開していることを理解する。 ・鎌倉時代の武士の発生や民衆の動き、仏教や文化等を意欲的に学習している。 ・古代から中世までの歴史を大観して、多角的に考察し表現している。 ・古代から中世までの歴史の課題を主体的に追求しようとしている。	知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度
3	1 2 3	7 7 5	２ ユーラシアの動きと武家政治の変化 ３ 結びつく民衆と下剋上の社会 定期考査 ☆中世までの歴史の変遷を表にまとめよう。	・鎌倉幕府の滅亡から室町幕府への移行期の新しい社会や文化の動きについて東アジア世界との関わりから考える。 ☆政治・経済・産業などの変遷をテーマを決めて表にまとめる。	知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度

小岩第三中学校　　第１学年　　数学科　　評価の方法

１．　評価に関わる教科指導の基本方針

数学は系統的な教科なので、１年生では中学生としての学習習慣を身につけるように指導します。２年、３年生では１年生で学習した数学の基礎を元に、より高次な学習へ生徒が円滑に進めるように指導していきます。

また、言語活動の取り組みとして、自分の意見を伝える場を多く設けていく。

したがって、指導の重点を日常の学習姿勢と考え、次の項目で評価していきます。

●日々継続的に勉強する習慣をつけさせるための生徒の取り組み　（評価計画）

①授業での取り組み

②提出物など家庭学習の取り組み

③小テスト、定期テストなどへの取り組み

２．　評価の観点と評価方法

●評価の３観点

①主体的に学習に取り組む態度　　②思考 判断 表現

③知識 技能

●評価から評定への総括方法一覧表（○がついている方法で評価します。）

	授業での取り組み		提出物等家庭学習の取り組み			テストなどへの取り組み		評価のポイント
評価方法	発言	授業態度	問題集	宿題	夏季宿題等	定期考査	小テスト等	★授業での取り組み ☆　発言 授業で積極的に発言しているか。 小グループ活動で積極的に発表し、意見を交換し、理解を深めているか。 ☆　ノート ノートをきちんととっているか。 ノートにその日学習したことや自分の考えをまとめているか。 ☆　授業態度 チャイム前着席をしているか。しっかりと話を聞いているか。 ☆　作業 授業内の活動やワークシートへの記入をしっかりやっているか。 ★提出物等への取り組み 提出物をきちんと出しているか。 しっかりと解いているか。 ★小テスト等とは、単元内の小テストなども含む。
主体的に学習に取り組む態度	○	○	○	○	○	○		
思考 判断 表現						○	○	
知識 技能						○	○	

第1学年　　数学　年間指導計画および評価規準

	章	節	時数	学習活動	評価基準
4	0章　算数から数学へ	1節　整数の性質	2	・九九表のきまり ・自然数をいくつかの数の積で表す ・素因数分解の意味と方法	知識・技能 ・自然数，素数，素因数分解の意味を理解している。 ・素因数分解の一意性を理解し，自然数を素因数分解することができる。 思考・判断・表現 ・自然数をいくつかの数の積で表すことにより，整数の性質を見いだし表現することができる。 主体的に学習に取り組む態度 ・自然数をいくつかの数の積で表すことにより，整数の性質を見いだそうとしている。
5	1章　正負の数	1節 正負の数	3	・正負の数の必要性と意味 ・正負の数で表された数量の意味 ・正負の数を数直線上に表す ・正負の数の大小について、数直線や絶対値をもとにして考える	知識・技能 ・正負の数の必要性と意味を具体的な場面と結び付けて理解している。 ・正負の数の大小関係や絶対値の意味を理解している。 ・正負の数の四則計算をすることができる。 ・具体的な場面で正負の数を用いて表したり処理したりすることができる。 思考・判断・表現 ・算数で学習した数の四則計算と関連づけて，正負の数の四則計算の方法を考察し表現することができる。 ・数の集合と四則計算の可能性について捉え直すことができる。 ・正負の数を活用して様々な事象における変化や状況を考察し表現することができる。 主体的に学習に取り組む態度 ・正負の数の必要性と意味を考えようとしている。 ・正負の数について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ・正負の数を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。
		2節 加法と減法	10	・正負の数の加法とその意味 ・正負の数の加法の計算 ・加法の交換法則と結合法則 ・正負の数の減法とその意味 ・正負の数の減法の計算 ・正負の数の加法と減法が混じった式を、項の和とみなす ・正負の数の加法と減法が混じった式の計算	
6		3節 乗法と除法		・正負の数の乗法の意味 ・正負の数の乗法の計算 ・乗法の交換法則と結合法則 ・累乗の意味と累乗の計算 ・正負の数の除法の計算（乗法の逆算） ・正負の数の除法の計算（逆数の乗法） ・正負の数の四則の混じった計算 ・正負の数の分配法則 ・数の範囲	
		4節 正負の数の利用	6	・身長の平均をくふうして求める ・身のまわりの問題を，正負の数を利用して解く	
		章の問題A	1		
	2章	1節 文字を使った式	8	・棒の本数と正方形の個数の関係 ・文字を用いることの必要性と意味 ・具体的な数量を，文字を使った式で表す ・文字式での積の表し方 ・文字式での累乗や商の表し方 ・単位をそろえる ・割合や速さに関する数量 ・πの意味と扱い方 ・文字の代入と式の値	知識・技能 ・文字を用いることの必要性と意味を理解している。 ・文字を用いた式における積や商の表し方を知っている。 ・文字を用いた式の文字に数を代入して，その式の値を求めることができる。 ・簡単な1次式の計算をすることができる。 ・数量の関係や法則などを，文字を用いた式に表すことができることを理解している。 ・数量の関係や法則などを，文字を用いた式を用いて表したり，読み取ったりすることができる。 思考・判断・表現 ・具体的な場面と関連づけて，1次式の加法と減法の計算の方法を考察し表現することができる。

7	文字と式				・文字を用いた式を活用して，具体的な事象を考察し表現することができる。
		2節 文字式の計算	8	・棒の本数を求める式 ・項と係数の意味 ・1次式の加法や減法の計算 ・1次式と数の乗法の計算 ・1次式と数の除法の計算	主体的に学習に取り組む態度 ・文字を用いることの必要性と意味を考えようとしている。 ・文字を用いた式について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ・文字を用いた式を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。
		3節 文字式の利用	9	・文字を用いた式を活用して，立方体をつなげた棒の本数を求める ・いろいろな整数を、文字を用いた式で表したり，式が表す数を読み取ったりする ・等式，不等式の意味。数量の間の関係の表し方	
		章の問題A	1		
9	3章 方程式	1節 方程式とその解き方	10	・方程式の必要性 ・方程式とその解の意味 ・等式の性質 ・移項の意味 ・かっこや，係数に小数をふくむ方程式 ・係数に分数をふくむ方程式	知識・技能 ・方程式の必要性と意味を理解している。 ・方程式の解や等式の性質，移項の意味を理解している。 ・等式の性質の意味を理解し，等式の性質を用いて方程式を解くことができる。 ・移項の考えを用いて方程式を解くことができる。 ・簡単な1次方程式，比例式を解くことができる。 ・事象の中の数量やその関係に着目し，1次方程式をつくることができる。 ・1次方程式を用いて具体的な場面の問題解決を行うときの，解の吟味の意味と必要性を理解している。 思考・判断・表現 ・等式の性質をもとにして，1次方程式を解く方法を考察し表現することができる。 ・方程式において，移項できる理由を等式の性質をもとにして考察し表現することができる。 ・具体的な場面の問題において，1次方程式を活用し，問題を解決することができる。 ・具体的な場面の問題において，解を吟味して解答としてよいことを判断することができる。 主体的に学習に取り組む態度 ・方程式の必要性と意味を考えようとしている。 ・正負の数や文字を使った式で学んだことを生かして，方程式を効率的に解く方法を検討している。
		2節 1次方程式の利用	10	・方程式を利用するときの考え方や手順 ・個数と代金に関する問題 ・過不足に関する問題 ・速さ・時間・道のりに関する問題 ・比例式の性質 ・比例式の性質を利用して問題を解く。	・方程式について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ・方程式を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。
		章の問題A	1		
10	4章 比例の性質と調べ方	1節 関数と比例・反比例	13	・関数の意味及び変域の意味と表し方 ・関数の関係があるかどうかの判断 ・身のまわりの問題を，関数の考えを利用して解決する ・比例、反比例の意味を理解し、それぞれの関係を式に表す	知識・技能 ・関数関係の意味を理解している。 ・比例，反比例について理解している。 ・比例，反比例を表，式，グラフなどに表すことができる。 思考・判断・表現 ・比例，反比例として捉えられる2つの数量について，表，式，グラフなどを用いて調べ，それらの変化や対応の特徴を見いだすことができる。 ・比例，反比例を用いて具体的な事象を捉え考察し 表現することができる。
		2節 比例の性質と調べ方		・比例の性質と負の数への広がり ・1組のx，yの値から，比例の式を求める	主体的に学習に取り組む態度 ・関数関係の意味や比例，反比例について考えようとしている。

11	比例と反比例			・座標の意味や点の位置の表し方、点の座標、座標を平面上の点で表す ・比例のグラフの意味と特徴 ・xの値が増加するときのyの値の変化 ・比例のグラフのかき方 ・比例の表，式，グラフの関連性	・比例，反比例について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ・比例，反比例を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。
		3節 反比例の性質と調べ方	12	・反比例の性質と負の数への広がり ・1組のx，yの値から，反比例の式を求める ・反比例のグラフの意味と特徴 ・反比例のグラフのかき方 ・反比例の値の変化の特徴 ・反比例の表，式，グラフの関連性	
		4節 比例と反比例の利用		・身のまわりの問題で、関数の関係にある数量を見出す ・身のまわりの問題を、比例や反比例を利用して解決する 。身のまわりの問題を、グラフを利用して解決する	
		章の問題A	1		
12	5章 平面図形	1節 図形の移動	14	・しきつめ模様の特徴 ・平行移動の意味と性質 ・回転移動の意味と性質 ・対象移動の意味と性質 ・合同な図形の関係を、移動の見方で捉える	知識・技能 ・平行移動，対称移動及び回転移動について理解している。 ・平面図形に関する用語や記号の意味と使い方を理解してる。 ・角の二等分線，線分の垂直二等分線，垂線などの基本的な作図の方法を理解している。 ・おうぎ形の弧の長さと面積を求めることができる。 思考・判断・表現 ・図形の移動に着目し，2つの合同な図形の関係について考察し表現することができる。 ・線対称な図形の性質をもとにして，基本的な作図の方法を考察し表現することができる。 ・図形の移動や基本的な作図を具体的な場面で活用することができる。
		2節 基本の作図		・作図における定規とコンパスの役割と使い方 ・交わる2つの円の性質 ・垂線の作図 ・垂直二等分線の作図 ・角の二等分線の作図 ・円の接線やいろいろな条件の作図 ・いろいろな角の作図	主体的に学習に取り組む態度 ・平面図形の性質や関係を捉えることの必要性と意味を考えようとしている。 ・平面図形について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ・図形の移動や基本的な作図を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。
		3節 おうぎ形		・おうぎ形の弧の長さや面積が中心角と比例すること ・おうぎ形の弧の長さや面積の求め方	
		章の問題A	1		
1	6章 空間図形	1節 いろいろな立体	15	・身のまわりの立体 ・多面体と角錐や円錐の意味と特徴 ・正多面体の意味	知識・技能 ・空間における直線や平面の位置関係を理解している。 ・立体図形の展開図や投影図について理解している。 ・柱体や錐体，球の表面積と体積を求めることができる。 思考・判断・表現 ・空間図形を直線や平面図形の運動によって構成されるものと捉えることができる。 ・空間図形を平面上に表現して平面上の表現から空間図形の性質を見いだすことができる。 ・立体図形の表面積や体積の求め方を考察し表現することができる。
		2節 立体の見方と調べ方		・空間内にある平面が1つに決まる条件 ・空間内にある平面と平面，平面と直線，直線と直線の位置関係 ・空間内にある直線と平面の垂直，平面と平面のつくる角 ・角柱や円柱，円錐，球などを，平面図形の移動によってできた立体とみる ・角柱，円柱の展開図とその特徴 ・角錐，円錐の展開図とその特徴	主体的に学習に取り組む態度 ・空間図形の性質や関係を捉えることの必要性や意味を考えようとしている。 ・空間図形について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。

2				・円錐の展開図で，側面になるおうぎ形 ・投影図の意味、立体の投影図から，その立体を読み取る	
		3節 立体の体積と表面積	5	・角柱や円柱の体積 ・角錐や円錐の体積 ・角柱や円柱，円錐の表面積 ・球の体積や表面積	
		章の問題A	1		
3	7章　データの分析と活用	1節 データの整理と分析	8	・記録の比較 ・データを度数分布表やヒストグラムに表し，分布の特徴を読み取る ・相対度数の必要性と意味と、2つのデータの比較 ・代表値や範囲を用いてデータの傾向を読み取る	知識・技能 ・ヒストグラムや相対度数などの必要性と意味を理解している。 ・累積度数，累積相対度数の必要性と意味を理解している。 ・代表値や範囲の必要性と意味を理解している。 ・コンピュータなどの情報手段を用いるなどしてデータを表やグラフに整理することができる。 ・多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の必要性と意味を理解している。 思考・判断・表現 ・目的に応じてデータを収集して分析し，そのデータの分布の傾向を読み取り，批判的に考察し判断することができる。 ・多数の観察や多数回の試行の結果をもとにして，不確定な事象の起こりやすさの傾向を読み取り表現することができる。 主体的に学習に取り組む態度 ・ヒストグラムや相対度数の必要性や意味を考えようとしている。 ・ヒストグラムや相対度数について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。
		2節 データの活用		・目的に応じてデータを収集して分析し，そのデータの分布の傾向を読み取り，批判的に考察し判断する	・ヒストグラムや相対度数を活用した問題解決の過程を振り返って検討したり，多面的に捉え考えようとしたりしている。 ・多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の必要性や意味を考えようとしている。
		3節 ことがらの起こりやすさ		・不確定な事象の起こりやすさを，その事象の起こる割合や試行の回数に着目して考える ・多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の必要性と意味 ・多数の観察や多数回の試行の結果をもとにして，不確定な事象の起こりやすさの傾向を読み取り説明する	・多数の観察や多数回の試行によって得られる確率について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。
		章の問題A	1		

令和 7 年度　小岩第三中学校　第 1 学年　理科　評定への総括方法

1 学年担当　田中智史

1.　評価に関わる教科指導の基本方針および評価計画

○実験、観察を多く取り入れ、視覚的情報を与えることによって理科への関心を高めるとともに、探求的に取り組む姿勢を身に付けさせる。
○小テストなどを通して、基礎・基本となる知識を身に付けさせる。
○学習内容と日常生活における現象を関連付け、科学的に考えられるようにする。
○協働的な学びを通して科学的な見方・考え方を身に付け、発展的な内容にも取り組み、解決することができるようにする。

2.　評価の 3 観点と評価方法

◎評価の 3 観点

①知識及び技能・・・自然の事物・現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察・実験に関する基本的な技能を身に付けている。
②思考・判断・表現・・・自然の事物・現象から問題を見出し、見通しをもって観察・実験などを行い、得られた結果を科学的に探究する力を養う。
③自然の事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

◎評価から評定への総括方法

	実験、観察のワークシート	定期テスト	小テスト	課題・宿題
①知識・技能	◎	◎	◎	○
②思考・判断・表現	◎	◎		○
③主体的に学習に取り組む態度	◎	△	△	○

小岩第三中学校　英語科　観点別評価方法

1．　評価にかかわる教科指導の評価方法

中学校３年間の学習を通して、「聞く」「話す」「書く」「読む」といったコミュニケーション能力の基礎の養成を目指します。

◎継続的に勉強する習慣をつけさせるための生徒の取り組み　（評価計画）

①授業での取り組み
②小テスト・定期テストなどの取り組み
③宿題・提出物など家庭学習の取り組み
これらを各観点に照らして評価します。

2．　評価から評定への総括方法

◎評価の３観点

①知識・技能
②思考・判断・表現
③主体的に学習に取り組む態度

◎評価から評定への総括方法一覧表　（〇がついている方法で評価します）

	授業での取り組み					テストへの取り組み			提出物など家庭学習への取り組み		
評価方法	発言・発表	教科書の読み	活動	聴く姿勢	コミュニケーションをとる態度	定期考査	小テスト	リスニングテスト	宿題	ワーク	ノート
知識・技能	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
思考・判断・表現	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇			
主体的に学習に取り組む態度	〇		〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇

【具体的な指導のポイント】

〔授業への取り組み〕・意欲的に発言したり発表しているか。また書こうとしているか。
・教科書の本文を場面、心情を踏まえて音読できるか。
・ノートを工夫してとっているか。
・話を熱心に聞いて理解しようとしているか。
・意欲的に話し合い活動に参加しているか。

〔提出物の取り組み〕・意欲的に提出しているか。
・自主的に学習しているか。

〔テスト等の取り組み〕・語彙、文法を理解し身につけているか。
・長めの文を読み、内容を理解しているか。
・英文を聴いて、内容を理解しているか。
・指示に従い意欲的に英文を書くことができるか。
・小テスト等に意欲的に取り組んでいるか。

年間指導計画表および評価規準　〈1年〉

学期・月		題材内容	評価規準
1学期	4	Get Ready Do you ~?/Can you~?/I want to be~. I'm~. You're~. I(don't)like~. I can't~. I want to go to~. When/Where の疑問文 アルファベットの形と発音 辞書の引き方	・登場人物の自己紹介や人物の情報を聞き取り理解することができる。自己紹介カードを作成することができる。（知・技） ・意欲的に相手とやり取りしたり、自分のことについて表現しようとしている。（思・判・表・主） ・アルファベットの形・つづり・発音を理解する。 ・意欲的に辞書を引き、調べようとする。（主） ・be 動詞の用法を理解し、自己紹介できる。（知・技）
	5	I'm Ben. I'm not Ami. Are you from~? Where are you from? 一般動詞（肯定/否定/疑問）	・where の用法を理解し表現することができる。（知・技） ・本文の内容を理解し、場面心情を踏まえて音読できる。（思・判・表） ・意欲的に相手のことや自分のことについて表現する。（主）
	6	命令文(Play baseball. Don't～.) can（肯定/否定/疑問） what の疑問文	・命令文の表現を理解し、正確に聞き取ったり、やり取りができる。（知・技） ・can, what の用法を理解し、何ができるか伝え合うことができる。（知・技） ・本文の内容を理解し、場面心情を踏まえて音読できる。（思・判・表） ・意欲的に相手のことや自分のことについて表現する。（主）
	7	自己紹介（スピーチ） This is ～. That is ～.（肯定/否定/疑問） who の疑問文 which/whose の疑問文	・This(That/It)の用法を理解する。（知・技） ・who の疑問文や人称代名詞の用法を理解し、絵の中の人物について表現できる。（知・技） ・本文の内容を理解し、場面心情を踏まえて音読できる。（思・判・表）
2学期	9	３人称・単数・現在（肯定/否定/疑問） 季節と月の名前	・意欲的に登場人物の紹介文を書いたり、友達を紹介する。（主） ・季節や月の名前の言い方を理解し、やり取りできる。（知・技）（主）
	10	him, her / why の疑問文, Because の用法 Where is～?/Turn right, and～など 店内放送を聞く 順番・日付の言い方	・him,her の用法、why の疑問文、because の用法を理解し、好きなものについて表現できる。（知・技）（思・判・表） ・道案内の表現を理解する。（知・技） ・役に分かれて意欲的にやりとりしようとする。（主） ・放送を聞いて内容を理解し、意欲的に日付。誕生日についてやり取りしようとする。（知・技）（主）
	11	There is (are) ～. /how の疑問文 スピーチの構成 これまでの復習	・There is (are)～の用法/ how の疑問文の用法を理解し、自分の住む地域にあるものを表現できる。（知・技） ・本文を理解し、場面、心情をふまえた音読ができる。（思・判・表） ・あるトピックについて意欲的に自分の考えを表現する。（主） ・既習の表現を使い、やり取りできる。まとまった英文が書ける。（知・技）
	12	現在進行形 インフォメーションギャップ	・写真などを見せながら、自分の紹介したい人を意欲的に紹介する。友達のスピーチを聞いて即興でやりとりする。（主） ・現在進行形（肯定・否定・疑問）の用法を理解し、表現できる。（知・技） ・本文を理解し、場面・心情を踏まえ音読できる。（思・判・表） ・意欲的にショートスキットを作る。（主）
3学期	1	一般動詞の過去形（肯定・疑問・否定） be 動詞の過去形（肯定・疑問・否定）	・一般動詞の過去形を理解し、過去について表現できる。（知・技） ・本文を理解し、場面、心情をふまえた音読ができる。（思・判・表）
	2	これまでの復習	・過去について感想意見を、意欲的に表現する。（主） ・既習の英文を聞いたり読んだりして、内容を理解する。（知・技） ・写真や絵について即興で話す。絵はがきを書く。（思・判・表）
	3	手紙の書き方	・意欲的にスピーチをしたり、絵はがきを書こうとする。（主）

令和７年度　　音楽科　評価方法（第１学年）

１．教科の方針

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽を愛好する心情を育てるとともに、音楽に対する　感性を豊かにし、音楽活動の基礎的な能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深め、豊かな　情操を養う。
授業の発表の場として、合唱コンクールで音楽表現をする。合唱曲の歌詞の内容や曲想を感じ取り、その楽曲ふさわしい表現を工夫することで言語活動の充実を深める。

２．評価計画

・主体的、対話的で深い学びの視点から点数だけでない部分の評価を重視し、表現する楽しさや喜びに結びつける。
・授業態度（表現する意欲）やノート（プリント）などの提出物を重視し評価していく。
・歌唱や実技テストを定期的に行い、定期考査と同等に評価する。
・年間を通して、歌唱、器楽、鑑賞、創作など、幅広い音楽活動を通して評価する。

３．評価の観点と評価方法

①知識・技能（知識・技能は分けて審査）
②思考・判断・表現

③主体的に学習に取り組む態度

・評価から評定への総括方法

評価項目 評価の観点	定期考査	実技テスト 【項目は下記】	授業の様子	ワーク シート
①　知識・技能	○	○		○
②思考・判断・表現	○	○	○	○
③主体的に学習に 取り組む態度		○	○	○

＊実技テスト評価項目

①正しい発声，奏法で演奏できているか（技）
②　音程，リズムが正しくとれているか（技）
③　曲にふさわしい表現や響きを追及して表現豊かに演奏できているか（思・判）
④　真剣な態度でテストに臨んでいるか（態）

令和７年度　１学年　年間指導計画

1年生	月	単　元	学習活動	評価規準
1学期	4	行事への取り組み① 混声合唱に親しもう 【歌唱】	歌唱に積極的に取り組む姿勢をつくる。 「校歌」「青空へのぼろう」「大切なもの」	**【態】（共通）意欲的に取り組んでいるか。** 【知・思】形式や曲想を理解し歌っているか。 【技】無理のない発声、正しい音程，リズムで歌っているか。
		階名読みに慣れよう	大譜表を理解して階名読みを学ぶ	【知】読譜が正しくできるか。
	5	日本の音楽に親しもう 【歌唱】	旋律の美しさを味わう。 「夏の思い出」「赤とんぼ」	【思】曲の形式を理解し、日本語の響きを生かしながら美しい音色を求めて歌っているか。
		和楽器を演奏しよう 【箏 和器楽】	箏の奏法を知り「さくら」など簡単な曲を演奏する。	技】正しい奏法で演奏できているか。
	6	和楽器の響きに親しもう　【鑑賞】	箏曲を味わう。「六段」	【思・判】用いられる音階や曲の構成など特徴を聞き取ろう
		合唱コンクールの選曲	クラスの雰囲気を考えて選曲する。	【知・思】 曲の内容や強弱などを考え鑑賞、選択できたか。
		情景を想像しよう 【鑑賞】	曲の背景や曲想の関わりを感じとり、その良さを味わう。ヴィヴァルデイ「春」	【知・思】楽曲や作曲者について 理解し味わって豊かな表現を鑑賞できたか。
	7			
		アルトリコーダーの奏法　【器楽】	基礎的な奏法を理解し、簡単な楽曲に取り組む	【技】正しい奏法で演奏できるか。 **【態】（共通）意欲的に演奏しているか。**

2 学 期	9 １０ １１ １２	行事への取り組み② 【歌唱】 アルトリコーダーの響きを味わう【器楽】 情景を想像しよう 【鑑賞】	歌詞の内容や曲想、全体の響きなど感じとって曲にふさわしい表現を工夫して歌う。（合唱コンクール） 美しい音や表現を工夫しながら演奏する。 曲の背景や曲想の関わりを感じとり、その良さを味わう。　「魔王」	【知・技】楽譜の諸記号を理解し表現を工夫しているか。 【技】正しい奏法で演奏できるか。 【思】美しい音色に気を付けて演奏しているか 【思】表現方法を生かして演奏に生かすことができるか。 【知・思】楽曲のや作曲者について 理解し味わって鑑賞できたか。
3 学 期	1 2 3	社会と音楽のかかわり 【鑑賞】 曲をつくろう 【創作】 行事への取り組み③ 【歌唱】	音楽の多様性を感じ取ってそのよさや美しさを味わう。「世界の音楽」 言葉の抑揚を生かして簡単なリズムや旋律で楽曲を完成させる。 曲想を感じ取り、声部の役割や全体の響きを感じ取って、曲にふさわしい表現を工夫しながら演奏する。	**【態】（共通）意欲的に取り組んでいるか。** 【知・思】我が国やアジア地域の多様で豊かな声による表現を鑑賞できたか。 【知】言葉の抑揚やリズムの仕組みを理解し、楽曲を完成させているか。 【思】表現記号に留意し、歌い方を工夫しているか。 【知・技】正しい音程で歌えているか。 言葉をはっきり歌っているか。

令和７年度　美術科　評価から評定への総括方法

美術科　教科目標

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して美術の創造活動の喜びを味わい美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を豊かにし、美術の基礎的な能力を伸ばし、美術文化についての理解を深め，豊かな情操を養う。

感じ取ったことや考えたことなどを基に表現する活動と伝える、使うなどの目的や機能を考えた表現する機能を経験させる。

評価の観点およびその趣旨

	全学年
知識・技能	対象や事象を捉える造形的な視点について理解している。 表現方法を創意工夫し、創造的に表している。制作における材料や用具の生かし方や見通しを持って表そうとしている。
思考・ 判断・表現	造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。
主体的に学習に 取り組む態度	美術の創造活動の喜びを味わい、表現や鑑賞の能力を身に付けるために、主体的に学習に取り組もうとする。制作の為に事前に制作資料などの準備をしている。

評価から評定への総括方法　（全学年共通）

評価項目／観点	授業態度 (振り返りカード、 聴く態度、質疑等)	アイデアスケッチ (制作過程の 工夫・試行)	ワークシート レポート	作品	定期 テスト
知識・技能		○	○	○	○
思考・ 判断・表現	○	○	○	○	○
主体的に学習に 取り組む態度	○	○	○	○	

令和７年度　美術　１年　年間指導計画および評価基準

【知】知識・技能
【思】思考・判断・表現
【態】主体的な学習態度

	月	単元	学習活動	評価規準
1学期	4	・色彩の基礎知識	・身近にあるデザインされた文字を鑑賞し、形や色彩から受ける印象やその違いについて考える ・明朝体で「永」を描く ・スケッチブック表紙に明朝体で記名する	【知】明朝体の特徴を理解して制作している 【思】制作の順序など考えながら見通しをもって表している 【態】書体などの伝達表現に関心を持ち、主体的に創意工夫して表したり、表現の工夫を感じ取ったりしようとしている
	5	・絵の具の使い方 ・12色相環を作る ・レタリング	・色の三要素、色料と色光の３原色 ・色彩の基礎知識～12色相環をつくる ・水彩絵の具の種類と使い方、混色方法	【知】工夫して混色表現ができている 【思】様々な塗り方を試し、意欲的に取り組もうとしている 【態】色の特徴を知り、意欲に授業に取り込もうとしている
	6	・絵文字	・漢字からイメージを広げ、絵とレタリングの文字を組み合わせてデザインする	
	7			【知】表現したいことのイメージを持ちながら、制作の順序などを考え創意工夫して表現している。 【思】わかりやすさや美しさなどを考え、イメージが伝わるよう象徴するものなどを用いている。形や色彩の効果を生かして表現の構想を練っている。 【態】主体的に想像し表現の工夫などを感じ取ろうとしている。アイデアを伝え合い共有しようとしている。
2学期	8			
	9	・お面づくり	・喜怒哀楽の表情の変化を観察して描く ・自己の内面のイメージを反映させてアイデアスケッチをする ・仮面芯に立体的に粘土をつけ、着彩する	
	10			【知】形や色を工夫して表現している 自分の想いや考えをもって味わっている 【思】自己の内面を考えて主題を生み出し作品に表現しようとしている 【態】表現を観察し、感情を表現する方法を試行錯誤している
	11			
3学期	12	・ポスターの歴史	・世界、日本のポスターの歴史、著名な画家の学習 ・メッセージやイメージを伝えるための工夫について考える。 ・ポスターでも使われるモダンテクニックを体験する	
	1			
	2			【知】モダンテクニックの技法を理解している 【思】作者の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めている。 【態】街中にあるポスターの特徴や表現方法について深く学ぼうとしている
	3			

令和７年度　　保健体育科　１学年　評価方法

教科担当：中村優一

１．評価に関わる教科指導の基本方針　（評価計画）

- 学習指導要領に基づいたカリキュラムを作成し、言語活動を積極的に取り入れる。
- 各分野、種目の基礎的な知識を身につけさせる。
- 授業態度や授業プリントなどの提出物を重視し、評価していく。また小テストなどを通じて、基礎的な知識を定着させる。
- 年間を通して体育分野と保健分野を学習していく。
- ICT を多用し、視聴覚教材をできるだけ活用していく。
- 主体的な発表授業を通じて、調べる力、発表する力をつける。

２．評価の観点と評価方法

① 知識及び技能
② 思考・判断・表現
③ 主体的に学習に取り組む態度

３．評価から評定への総括方法の一覧表（各観点を総括して数値化し評価します）

評価方法	授業での取り組み	見学・欠席等、態度、言語活動、ワークシート、安全に留意する姿勢
	実技への取り組み	運動技能の向上、課題の達成、協働活動
	テストなどへの取り組み	ルールの理解、運動特性の理解、教科書や実技所の理解、生活・健康・安全への理解
評価のポイント	(ア) 知識及び技能	①ルールや技能のポイントを理解している ②各種目の技能を習得している。 ③生活、健康、安全について理解している
	(イ) 思考・判断・表現	①課題を発見し、合理的な解決に向けて取り組みを工夫している。 ②自分の考えを他者に伝えることができる。 ③仲間と教え合い、チームやペアとのかかわり方を見つけている。 ④安全上の留意点を他の学習場面に当てはめている。
	(ウ) 主体的に学習に取り組む態度	①欠席、見学、忘れ物がない。 ②正しい服装をしている。 ③運動や健康に対する興味関心が高く、積極的に取り組んでいる。 ④公正な態度で授業に取り組んでいる。 ⑤自身の学習を深めようとしている。

４．令和７年度　第１学年　保健体育科　評価規準

体つくり運動

〇知識

・体つくり運動の意義と行い方、体の動きを高める方法などについて理解している。

〇思考・判断・表現

・自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。

〇主体的に学習に取り組む態度

・体つくり運動に積極的に取り組むとともに、仲間の学習を援助しようとすること、一人一人の違いに応じた動きなどを認めようとすること、話合いに参加しようとすることなどをしたり、健康・安全に気を配ったりしている。

器械運動

〇知識・技能

・器械運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などについて理解している。

・マット運動では、回転系や巧技系の基本的な技を滑らかに行うこと、条件を変えた技や発展技を行うこと及びそれらを組み合わせることができる。

・跳び箱運動では、切り返し系や回転系の基本的な技を滑らかに行うこと、条件を変えた技や発展技を行うことができる。

〇思考・判断

・技などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えている。

〇主体的に学習に取り組む態度

・器械運動に積極的に取り組むとともに、よい演技を認めようとすること、仲間の学習を援助しようとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとすることなどをしたり、健康・安全に気を配ったりしている。

陸上競技

〇知識・技能

・陸上競技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などについて理解している。

・短距離走・リレーでは、滑らかな動きで速く走ることやバトンの受渡しでタイミングを合わせることができる。

・ハードル走では、リズミカルな走りから滑らかにハードルを越すことができる。

〇思考・判断・表現

・動きなどの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えている。

〇主体的に学習に取り組む態度

・陸上競技に積極的に取り組むとともに、勝敗などを認め、ルールやマナーを守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとすることなどをしたり、健康・安全に気を配ったりしている。

水泳

〇知識・技能

・水泳の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などについて理解している。

・クロールでは、手と足の動き、呼吸のバランスをとり速く泳ぐことができる。

・平泳ぎでは、手と足の動き、呼吸のバランスをとり長く泳ぐことができる。

・背泳ぎでは、手と足の動き、呼吸のバランスをとり泳ぐことができる。

・バタフライでは、手と足の動き、呼吸のバランスをとり泳ぐことができる。

〇思考・判断・表現

・泳法などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えている。

〇主体的に学習に取り組む態度

・水泳に積極的に取り組むとともに、勝敗などを認め、ルールやマナーを守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとすることなどをしたり、水泳の事故防止に関する心得を遵守するなど健康・安全に気を配ったりしている。

球技

〇知識・技能

・球技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などについて理解している。

・ゴール型では、ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防をすることができる。

・ネット型では、ボールや用具の操作と定位置に戻るなどの動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができる。

・ベースボール型では、基本的なバット操作と走塁での攻撃、ボール操作と定位置での守備などによって攻防をすることができる。

〇思考・判断・表現

・攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。

〇主体的に学習に取り組む態度

・球技に積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ろうとすること、作戦などについての話合いに参加しようとすること、一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとすること、仲間の学習を援助しようとすることなどをしたり、健康・安全に気を配ったりしている。

体育理論

〇知識

・運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方について理解している。

〇思考・判断・表現

・運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方について、自己の課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えている。

〇主体的に学習に取り組む態度

・運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方についての学習に積極的に取り組もうとしている。

保健

〇知識・技能

・傷害の防止、健康な生活と疾病の予防について、個人生活を中心として科学的に理解しているとともに、基本的な技能を身に付けている。

〇思考・判断・表現

・傷害の防止、健康な生活と疾病の予防について、個人生活における健康に関する課題を発見し、その解決を目指して科学的に思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えている。

〇主体的に学習に取り組む態度

・傷害の防止、健康な生活と疾病の予防について、自他の健康の保持増進や回復についての学習に自主的に取り組もうとしている。

<table>
<tr><th>学期</th><th>月</th><th>体育</th><th>保健</th><th>補助運動</th></tr>
<tr><td rowspan="4">1学期</td><td>4月</td><td>集団行動
体つくり運動</td><td rowspan="3"></td><td rowspan="2">ランニングドリル
ジャンプトレーニング</td></tr>
<tr><td>5月</td><td>運動会練習
短距離走・リレー</td></tr>
<tr><td>6月</td><td>短距離走・リレー
新体力テスト
ハンドボール</td><td rowspan="3">健康な生活と病気の予防</td><td rowspan="2">昔遊び（ことろことろ）
ボールタッチゲーム</td></tr>
<tr><td>7月</td><td>ハンドボール
水泳</td></tr>
<tr><td rowspan="4">2学期</td><td>9月</td><td>水泳
ダンス</td><td rowspan="4">心身の発達と心の健康
１～８</td><td>水中トレーニング
ストレッチ</td></tr>
<tr><td>10月</td><td>ダンス
武道　少林寺拳法</td><td>エアロ補助運動
タッチゲーム</td></tr>
<tr><td>11月</td><td>武道　少林寺拳法
器械運動（マット）</td><td>タッチゲーム
アニマルモーション</td></tr>
<tr><td>12月</td><td>器械運動（マット）
長距離走</td><td rowspan="2">アニマルモーション
尻尾追い
ステップトレーニング</td></tr>
<tr><td rowspan="3">3学期</td><td>1月</td><td>長距離走
バレーボール
体育理論
（運動やスポーツの必要性と楽しさ）</td><td rowspan="3">心身の発達と心の健康
９～１２</td></tr>
<tr><td>2月</td><td>バレーボール
ハードル走
体育理論
（運動やスポーツへのかかわり方）</td><td rowspan="2">ステップトレーニング
ミニハードル疾走トレーニング</td></tr>
<tr><td>3月</td><td>ハードル走
体育理論
（運動やスポーツの多様な楽しみ方）</td></tr>
</table>

令和７年度　　小岩第三中学校　技術科　観点別評価の方法

１　目標

①　生活や社会で利用されている材料、加工。生物育成、エネルギー変換及び情報の技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付け、 技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深める。

②　生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、製作図等に表現し、試作等を通じて具体化し、実践を評価・改善するなど課題を解決する力を養う。

③　よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

２　評価の観点

〔知識・技能〕

生活や社会で利用されている技術について理解しているとともに、それらに係る技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解している。

〔思考・判断・表現〕

生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。

〔主体的に学習に取り組む態度〕

よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、技術を工夫し創造しようとしている。

３　評価方法の一覧表（学期ごとに〇が付いている方法から選択し評価します。）

	授業での取り組み					定期考査等		
項目	聞く姿勢	プリントワークシート	用具等の取扱い	作品製作の過程	作品	定期考査	実技テスト	作業日誌 課題・宿題等
知識 技能		〇		〇	〇	〇	〇	
思考 判断 表現				〇	〇	〇		〇
主体的に学習に取り組む態度	〇	〇	〇	〇	〇			〇

令和７年度　第１学年　技術科　年間指導計画・評価規準　　担当　桑　原

【観点別評価】　（知）…知識・技能　（思）…思考・判断・表現
（態）…主体的に学習に取り組む態度

月	学習項目	学習内容	評価の観点
4	技術分野のガイダンス	・３学年間の学習内容を確認し，技術分野の学習を生かして，３年後にできるようになっていたいことを内容ごとにまとめる。	・３学年間の技術分野の学習に見通しを持ち，主体的に学習に取り組もうとしている。（態）
5	製作品を構想し，設計しよう	・課題を解決するために，使用目的や使用条件に合わせて，製作品の構想を具体化する。 ・機能の検討 ・材料の検討 ・構造の検討 ・加工方法の検討 ・製作品の構想を製作に必要な図に表す。	・製作に必要な図の描き方を理解している。（知） ・製作に必要な図に表すことができる技能を身に付けている。（知） ・材料の選択や成形の方法などを構想し，設計を具体化する力を身に付けている。（思）
6	製作の計画を立てよう	・製作に必要な図を基に，部品表，材料取り図を作成し，製作に必要な材料を準備する。 ・製作工程表を作成する。 ・工程ごとに使用する工具や機器を調べる。	・構想に基づいて，製作の計画を立てることができる力を身に付けている。（思）
6	木材，金属，プラスチックの特性	・木材，金属，プラスチックの特性について調べる。 ・木材，金属，プラスチックがどのような製品に利用されているかをまとめる。	・木材，金属，プラスチックなどの特性と特性を生かした利用方法について理解している。（知）
7	材料に適した加工方法	・工具や機器を加工の特性や方法に応じて分類する。 ・材料と目的に応じた工具や機器を選択する。 ・工具や機器を安全に使用する方法や技術室の安全のための決まりを調べる。 ・簡単な加工体験を行う。	・目的とする加工に応じた工具や機器について理解している。（知） ・工具や機器を適切に選択し，安全に配慮しながら，簡単な製作品を製作できる技能を身に付けている。（知）
7	丈夫な製品を作るために	・製品を丈夫にするための材料と加工の技術の工夫について調べる。 ・部材の組み合わせや接合の方法などを工夫して製品を丈夫にする方法を考える。	・身の回りの製品を丈夫にする方法を調べる活動などを通して，構造と部材を丈夫にする方法について理解している。（知）
9 10	作業手順を考えて製作しよう	・切り代や削り代を見込んで，仕上がり寸法線と切断線をけがく。 ・材料を切断線に従って切断する。 ・寸法線に従って加工する。 ・加工後，検査・修正し，仮組み立てをする。 ・組み立てをする。組み立て後，検査・修正する。 ・素材や用途に合った表面処理をする。	・安全・適切な製作や検査・修正をすることができる技能を身に付けている。（知） ★他者と協働して，粘り強く取り組もうとしている。（態）
11	問題解決の評価，改善・修正	・材料と加工の技術による問題解決を振り返り，解決結果及び解決過程を評価し，改善・修正する方法について考える。	・製作の過程や問題解決の結果を評価し，改善及び修正する力を身に付けている。（思） ★自らの問題解決を振り返り，よりよいものとなるように改善・修正しようとしている。（態）

月	学習項目	学習内容	評価の観点
12	材料 と加工の技術の最適化	・自分の問題解決における最適化の場面を振り返り，社会の問題解決における最適化と比較する。 ・社会からの要求 ・安全性 ・環境への負荷 ・経済性	・材料と加工の技術の概念について理解している。（知） ・材料と加工の技術の最適化について考えている。（思）
	これからの材料と 加工の技術	・持続可能な社会の構築のために，これからの材料と加工の技術について考える。	・よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて，材料と加工の技術を評価し，適切な選択，管理・運用，改良，応用について考えている。（思） ★よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて，材料と加工の技術を工夫し創造しようとしている。（態）
1	情報の技術とは何だろう	・生活や社会，産業のさまざまな場面でコンピュータなどの情報の技術が利用されていることを知る。 ・コンピュータを構成するハードウェアとソフトウェアについてまとめる。	・情報の表現や記録ができる仕組みを理解している。（知） ★主体的に情報の技術について考えようとしている。（態）。
	情報のデジタル化	・コンピュータは全ての情報を数値化して処理していることを知る。 ・情報のデジタル化の方法をまとめる。 ・画像をデジタル化する方法やデータ量との関係についてまとめる。	・情報のデジタル化の仕組み，デジタル化の方法とデータ量の関係について理解している。（知）
2	情報通信ネットワーク の仕組み	・情報通信ネットワークの仕組みについてまとめる。 ・情報通信ネットワークを使って，情報をやりとりする仕組みについて知る。	・情報通信ネットワークの構成について理解している。（知） ・情報通信ネットワーク上での情報を利用する仕組みについて理解している。（知）
	安全に利用するための 情報モラル	・情報の特性について考え，情報が社会に与える影響について調べる。 ・望ましい情報社会のための態度について考える。	・情報の特性を理解して，情報を安全に利用することができる技能を身に付けている。（知） ★情報が社会に与える影響を理解して，望ましい情報社会のために取るべき態度を身に付けようとしている。（態）
3	安全に利用するための 情報セキュリティ	・情報セキュリティを実現するための3つの要素を知る。 ・機密性　・完全性　・可用性 ・情報通信ネットワークにおけるサイバーセキュリティの重要性について考える。 ・セキュリティ対策のためのソフトウェアやシステムがあることを知る。	・情報セキュリティの基本的な知識について理解している。（知） ★情報の安全を確保するために必要な判断や対応をする力を身に付けようとしている。（態）
	情報の技術の工夫を 読み取ろう	・情報の技術に込められた問題解決の工夫について考える。 ・身近なシステムや自動化の技術の問題解決の工夫などから，「技術の見方・考え方」について気付いたことをまとめる。	・情報の技術に込められた工夫を読み取り，「技術の見方・考え方」に気付くことができる。（思）

令和７年度　　家庭科　　１年　　評価方法　　担当　藤田　恵

評価計画

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を育成することを目指す。

評価の観点

観点	評価の観点の趣旨
知識・技能	家族･家庭の基本的な機能について理解を深め、生活の自立に必要な家族･家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。
思考・判断・表現	これからの生活を展望し、家族･家庭や地域における生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。
主体的に学習に取り組む態度	家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。

評価から評定への総括方法

（学期ごとに○がついている方法から選択し評価します。）

	授業での取り組み					定期考査等	
	聞く姿勢	プリント	用具等の取り扱い	作品製作の過程	作品	定期考査	レポート課題・宿題等
知識・技能			○	○	○	○	○
思考・判断・表現		○	○	○	○	○	○
主体的に学習に取り組む態度	○	○	○	○	○		

1学年　年間指導計画および評価規準　（計 35 時間）

学期	月	単元名	時数	指導内容	評価規準
1	4	A家族・家庭生活 （1）自分の成長と家族・家庭生活	1	・家庭分野科のガイダンス	小学校の学習を振り返り、中学校３年間の見通しをもって学習に取り組もうとしている。＜主＞
	5	食生活と栄養	4	中学生に必要な栄養素 バランス良い食事について考えよう	1 日に必要な食品の種類と概量について関心を持ち、意欲的に調べようとしている。不足している食品群を補うような 1 日分の献立を考え、工夫できる＜主・知・技・思・判・表＞
		献立作り	7	給食献立を考えよう	栄養素の特徴を踏まえ、バランスの良い給食献立を作成する。摂取量の目安に近づくよう工夫している。＜知・技・主＞
	6				
	7	生活を豊かにするために	7	生活に役立つものを作る 基本縫い、ほころび直しの方法	より生活を豊かにするために、製作の技能を身につけている。＜工夫/技能＞ 衣服の補修の目的と布地に適した方法について理解し、実践することができる。＜知・技＞
2	9 10				
		食品選択	6	食品の保存と食中毒の防止について考えよう 調理の計画	食品の安全性に関する問題などに興味をもち、自分の食生活での課題解決を考え工夫している。＜主・思・判・表＞
		日常食の調理	4	基本的な調理技能を身に付ける 生鮮食品と加工食品の特徴を知ろう 食品の選択と購入について考えよう 肉の調理 魚の調理	食品の保存方法や食中毒の防止について理解している　＜知＞ 日常食の調理に関心を持ち、調理技術を習得しようとしている。＜主・知・技＞ 食品や調理用具の安全と衛生に留意して調理操作ができる。＜知・技・思・判・表＞ 調理に必要な手順や時間を考えて作業や工夫ができる。＜思・判・表・主＞
	11				
	12				
3	1	行事と食文化	3	日本の食文化 食料の大切さを知る	生鮮食品、加工食品の特徴について理解している。＜知・主＞ 地域や季節の行事食の調理・文化や食料自給率に関心をもち、意欲的に取り組もうとしている。＜主・知＞
	2				
		家族・家庭生活	2	家族を支える社会	
	3				